

氏 名 : 新実 絹代
学位の種類 : 博士 (看護学)
学位記番号 : 博看第2号
学位授与の要件 : 学位授与基準第4条第1項該当
学位論文題目 : 看護基礎教育と新人看護職員研修を連携させた看護教育のあり方に関する研究 - 「看護管理学」教育に着目して -
研究指導教員 : 教授 草間 朋子
論文審査委員 : (主査) 竹内 朋子
(副査) 石田 千絵、坂本 すが、福井 小紀子、草間 朋子

論文審査結果の要旨

本研究は、看護基礎教育と新人看護職員研修における「看護管理学」教育の実態を明らかにし、今後の教育システムに関する示唆を得ることを目的としている。

看護基礎教育機関における「看護管理学」教育の実態を明らかにするために、看護系大学(58校)で「看護管理学」の責任者を務める教員(230名)に無記名自己記入式質問紙調査を実施した結果、「看護管理学」を科目として設定している大学は84.5%で、教育項目の上位は、看護マネジメントの基礎に関するものであった。また、担当教員の約70%が医療機関での看護管理職経験者であった。

また、看護基礎教育機関における看護学生の「看護管理学」に対する認識・理解の実態を明らかにするために、「看護管理学」を履修した看護系大学生(2校、140名)に無記名自己記入式質問紙調査を実施した結果、「理解が難しい」教育項目の上位は「看護マネジメントの基礎」に関する項目であった。また、「興味・関心が高い」教育項目の上位は、「リーダーシップ」、「ストレスマネジメント」に関する項目であった。

さらに、新人看護職員研修における「看護管理学」教育の実態を明らかにするために、全国の600床以上の一般病院(96病院)の看護部門責任者(247名)に対して無記名自己記入式質問紙調査を実施した結果、「看護管理学」にかける年間の集合研修の時間数は、38.9%の病院で10~20時間であった。集合教育で75%以上の病院が実施している教育項目は、「チームの中での看護職の役割」、「医療安全の概念」、「感染防止対策」、「ストレスマネジメント」であった。

上記の結果をふまえて、本研究は「看護管理学」の新たな教育システムの方向性として、看護基礎教育機関と新人看護職員研修がそれぞれの役割をすみ分けながらも、両者が連携する体系的な教育システムが望ましいことを提言した。

本研究は、「看護管理学」に関する看護基礎教育と新人看護職員研修におけるそれぞれの実態を明らかにし、今後求められる新たな教育システムの概要に関する示唆を得た点で評価できる。今後は、本研究に基づく具体的な看護教育システムの構築と、その定量的な評価が期待される。

上記から、本研究を博士論文として認定する。

平成 29 年 1 月 24 日

論文審査委員（主査）竹内 朋子